



大原美術館後援会会報

丸窓

[第35号] 令和8年6月

《掲載情報》

・大原美術館後援会新会長平井優子
より就任のご挨拶
・「OHARA コレクション・ハイライト
—19世紀から現代まで」について など
発行：大原美術館後援会事務局

就任のご挨拶

AM倉敷(Artist Meets Kurashiki)vol.7「lost 2」でも活躍された平井優子氏が、このたび大原美術館後援会会長に就任されました。就任にあたり、ご挨拶をいただきました。



このたび、大原美術館後援会会長に就任いたしました、ダンサー・演出振付家の平井優子と申します。

歴史ある本会の会長という大役を前に、身の引き締まる思いでありますと同時に、新たな出会いへの期待に心を弾ませております。大原美術館が日本初の西洋美術を中心とした私立美術館として開館以来、「今を生きる人々にとって意義のあること」という理念で倉敷の地に築いてきた文化の蓄積と、人と人とを結びつけてきた営みに深い敬意を抱いております。

アートには、まだ出会ったことのない価値観や、見知らぬ誰かの視線に想像を巡らせる力があると信じています。立場や世代を越えて人々が集い、語り合える場があることは社会にとって大きな豊かさであり、後援会もまた、人と人とがつながり、未来の文化をともに育む場だろうと感じます。

微力ではございますが、皆さまと力を合わせながら誠心誠意努めてまいります。

何卒ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



平井 優子

後援会活動報告

対談「児島虎次郎、西へ東へ～時代を駆け抜けた軌跡を語る～」ならびに「倉敷大原家と中国美術」特別鑑賞会を開催しました！

対談は2026年3月8日(日)、倉敷市立美術館講堂にて開催されました。児島虎次郎がヨーロッパや東アジアの異文化に触れ、その経験を「作品」として日本へ紹介した足跡について、大原芸術研究所 所長・大原美術館館長の三浦篤氏と、倉敷考古館館長の山花京子氏が専門的な視点から語り合いました。また、児島虎次郎の孫である加計美術館館長・児島堯太郎氏にもご参加いただき、多角的な視点から児島虎次郎の人物像や作品への理解を深められる貴重な機会となりました。

また、特別展「倉敷大原家と中国美術」特別鑑賞会は、5月11日(月)、会場である本館5室～7室にて開催され、吉川あゆみ特命上席研究員による分かりやすく興味深い解説のもと、中国絵画の繊細な表現や歴史的背景について新たな発見を得る機会となりました。ギャラリートークは2回開催され、いずれも多くの会員の皆様にご参加いただきました。西洋絵画を中心とする通常の展示とは異なり、国宝や掛軸、屏風などを紹介した本特別展には、多くの来館者が訪れ、高い関心を集めました。

今後も大原美術館後援会では、大原美術館を通じて地域文化への理解を深める魅力ある企画を継続してまいります。会員の皆様とともに、大原美術館の活動を支えながら、芸術文化に親しむ機会の充実に努めてまいります。



対談の様子



特別鑑賞会でのギャラリートークの様子

「OHARA コレクション・ハイライトー19世紀から現代まで」について

研究員 長谷川祐里



本館1室の展示風景

現在、大原美術館本館では「OHARA コレクション・ハイライトー19世紀から現代まで」を開催しています。昨年度は「収集の軌跡～絵画・彫刻編～」ということで、収集した順番に展示をしていましたが、今年度は作品の制作年代順に並べ替えています。

特別展「倉敷大原家と中国絵画」期間中(4月25日～6月7日)は、本館1～4室の縮小版だったのですが、特別展終了後からは1～7室までを使用しています。途中、ARKO事業の展示が入るために再び縮小しますが、規模を変えながら継続していきます。

コレクション展は、このように特別展示の合間にお楽しみいただけるのも、魅力の一つだと思っています。展示されている場所が違えば、作品の印象も変わってくるもの。この場所に

戻ってきた！今回はこんなところに飾られている！といったことを考えながら見てみると、新たな発見があるかもしれません。ちなみに、エル・グレコ《受胎告知》は修復後の成果展示中ですが、変わらぬ場所で、よみがえった色彩をご堪能いただけます。

また、歴史ある大原美術館だからこそ、「初めて見る！」「十数年ぶりに見た！」と作品によって反応が分かれることもあります。7室は現在、蜷川実花さん、谷保玲奈さん、東島毅さんの作品が展示されていますが、特に反応が分かれる一部屋なのではないでしょうか。お気に入りの1点に、はじめましての1点に、ぜひ会いに来てください。

マーケティング課プロモーションチームより

プロモーションチームのお仕事についてのご紹介

プロモーションチーム長 林真弓



休館期間が明けた5月の過日、大原美術館の本館2室にマスコミの皆様をお呼びして「令和8年度事業説明会」を開催しました。当日はTV局、新聞社、WEBメディアの計13社にお越しいただきました。大原芸術財団からは大原あかね代表理事、藤田文香財団本部長、孝岡睦子研究課長が登壇し、大原美術館の特別展やコレクション展、なんなんDAYSをはじめとする教育普及活動のさらなる活性化、倉敷考古館の連携展等について発表いたしました。記者の方々からも活発にご質問を頂き、大原芸術財団への関心の高さが伺えました。事業説明会終了後、特別展「倉敷大原家と中国絵画」(現在は終了)のマスコミ向け説明会も実施いたしました。記者の方たちにとっても、大原美術館＝西洋絵画のイメージが強かったようですが、実際に展示された雪舟等楊筆《山水図》・「銭選」印《宮女図》の二つの国宝をはじめとする作品の数々をご覧いただき、総合美術館としての大原美術館の姿を改めてお見せできたのではないかと思います。

プロモーションチームでは、イベントやワークショップの実施だけでなく、こういったマスコミの方々向けの内見会や説明会の企画・実施も行っております。後援会の皆様がお越しの際に撮影が行われていましたら、可能な限り鑑賞のご迷惑にならないよう頑張っておりますので、ご理解いただけますと幸いです。



事業説明会の様子



マスコミ向け説明会の様子

表紙の作品について



エル・グレコ(ドメニコス・テオトコプーロス)
《受胎告知》
109.1 cm × 80.2 cm 油彩、画布
1590年頃-1603年

キリスト教美術の長い歴史上で無数に描かれてきた「受胎告知」。スペインの巨匠エル・グレコは、深い闇が渦巻く中、閃光と共に舞い降りる聖霊の鳩、そして緊張感あふれる面持ちで対峙する天使と聖母という劇的な情景としました。昨夏、約60年ぶりの修復を終え、制作当初の色彩が見事に蘇りました。ぜひ展示室でご覧下さい。

後援会事務局より

募集

大原美術館後援会は、これまで美術館が担ってきた運営体制から、「支える・応援する」という会員の皆様主体の運営へと少しずつ移行していけないかと検討しています。

まずは関心をお持ちの会員様と後援会のこれからについて気軽に話し合う場を設けたいと考えております。いっしょにこれからの大原美術館後援会について考えてみませんか。

引き続き、ご興味をお持ちの方、ご質問のある方を募集しております。右記フォームよりご連絡ください。



《募集フォーム》



「みんなのマイミュージアム基金」の情報は、右記二次元コードからご覧いただけます。引き続きご支援の程よろしくお願い申し上げます。



大原美術館後援会事務局 〒710-8575 岡山県倉敷市中央1-1-15
TEL(086)422-0005 FAX(086)427-3677
<https://www.ohara.or.jp/>

